６／３０（火）の発表

【道庁プレスリリース】

報道発表資料の配付日時　　６月３０日（火）１０時００分

発表項目（行事名）	第48回「全日本中学生水の作文・北海道地方コンクール」の入賞者の決定について		
記者レクチャーのお知らせ	(実施日時)	発表者	
		発表場所	

概要

1　北海道地方コンクール受賞者等（入賞の掲載は五十音順）

応募総数84編を審査の結果、次のとおり決定しました。

【個人賞】

最優秀賞	１編	栗山町立栗山中学校	２年	水野（みずの）　天護（てんご）さん
優秀賞	１編	北海道教育大学附属函館中学校	３年	伊東（いとう）　心凪（こなぎ）さん
入選	３編	砂川市立砂川学園	８年	佐々木（ささき）　彩愛（あやな）さん
		旭川市立東鷹栖中学校	１年	土居（どい）　七海（ななみ）さん
		北海道教育大学附属札幌中学校	１年	縄（なわ）　乃々香（ののか）さん

【学校賞】１校

旭川市立東鷹栖中学校

2　表彰について

「北海道知事」名で賞状及び副賞を贈呈します。

個人賞（最優秀賞、優秀賞及び入選）は、所属中学校を通して本人に伝達することとしております。伝達行事の実施等は、学校にお問い合わせください。

※個人賞及び学校賞の賞状及び副賞は本日、各中学校あて発送。

3　中央審査について

入賞作文の５作品を全日本中学生水の作文コンクール中央審査の対象として国土交通省に推薦しています。

中央審査において受賞した場合は、改めて、受賞内容等を発表します。

参考

・入賞者一覧 ・・・・・・・・・・・・資料１
・最優秀及び優秀作文 ・・・・・・・資料２
・北海道地方コンクールの概要 ・・・資料３
※実施要領等の詳細は土地水対策課ホームページをご覧ください。

R8実施について　　R8入賞者

報道（取材）に当たってのお願い

・記事掲載にあたっては、作文の電子データの提供も可能です。

他のクラブとの関係

同時配付（同時レク）　※　空知、石狩、渡島、上川各（総合）振興局記者クラブ

担当（連絡先）

総合政策部 計画局 土地水対策課　課長補佐　内山
ＴＥＬ　ダイヤルイン　０１１－２０４－５１３５（内線２３－７１３）
公用スマホ　０１１－５８５－６１０１（内線２７９９３）

資料１

第 48 回「全日本中学生水の作文・北海道地方コンクール」入賞者一覧

最優秀賞

作　品　名	氏　名	学校名及び学年	管　内
価値ある日本の水	水野（みずの）　天護（てんご）	栗山町立栗山中学校　　２年	空知

（敬称略）

優秀賞

作　品　名	氏　名	学校名及び学年	管　内
水の日からつながる世界	伊東（いとう）　心凪（こなぎ）	北海道教育大学附属函館中学校　３年	渡島

（敬称略）

入　選

作　品　名	氏　名	学校名及び学年	管　内
今も昔も変わらない川	佐々木（ささき）　彩愛（あやな）	砂川市立砂川学園　８年	空知
これからも、この先も	土居（どい）　七海（ななみ）	旭川市立東鷹栖中学校　１年	上川
木の上の賢者に学ぶ一滴の重み	縄（なわ）　乃々香（ののか）	北海道教育大学附属札幌中学校　１年	石狩

（敬称略、五十音順）

※上記５作品を中央審査に推薦

学校賞

学　校　名	管　内
旭川市立東鷹栖中学校	上川

資料2

【最優秀賞】

価値ある日本の水

栗山町立栗山中学校　二年　水野　天護

私が暮らす栗山町は、夕張川の中流域にあり、豊かな自然に囲まれ、農業が盛んな町である。明治時代から、夕張川の水の恵みを受けながら、町は栄えてきた。

最近、この恵みの水が、日本各地で危機を迎えている。雨が降らないため、ダムの貯水量が極端に減っているのだ。北海道は、積もる雪のおかげで、水にはそこまでは困らないらしいが、温暖化や気候変動が進む中、水不足にならないのか不安になった。

そんなとき、父と水の大切さについて話題になった。

私の家は、イチゴ農家をしている。農家にとって、作物や果物を育てるには、「水」は絶対に欠かせないものだ。我が家も、イチゴを育てるために用水路の水や水道水を使い、ハウスの中にパイプを通して、苗に水を与えている。しかも適切な水分量にしなければ、おいしいイチゴにはならないという。また、最近の北海道の夏はかなり高温となるため、ハウスの冷却など温度管理のためにも水を使っている。大切な水を確保し、管理していくのに苦労は絶えない。パイプの不具合で水が出なくなれば、それだけでイチゴは枯れてしまう。逆に大雨でハウスが水浸しになれば、苗が腐ったり、イチゴの実がだめになったりしてしまう。水の恩恵を受けるということは、簡単なことではないのだ。父と話をして、水を大切にしながら上手に付き合っていかなければ、農業はできないということを改めて考えさせられた。

今、私たちは、毎日水を飲み、水を使って生活を送っている。水がなくなれば、生きてはいけない。にもかかわらず、水は、いつでも使えるものだという感覚になってはいないだろうか。そういう自分も、水は、当たり前に使えるものだと思い込んでいた。

私は、今年の一月に、町の海外派遣事業でオーストラリアへ研修に行ってきた。研修をする中で、不便に感じたことがあった。それは、水道の水を飲めないことだ。オーストラリアは、水道管が通り蛇口もあるが、その水は「飲料水」ではないのだ。だから、毎日、ペットボトルで飲み水を購入し、研修を行わなければならなかった。日本とは違い、不便で面倒に感じた。

世界で水道水を飲める国は、十ヵ国に満たないことを、ちょうど授業で学んだ。さらには、不衛生な水でも飲まなくてはいけない国もあり、それが原因となって、幼い子が命を落としていることもわかった。その点、日本の水事情はとても恵まれている。水道の水は、きれいに透き通り、いくらでも飲むことも、使うこともできる。日本の水の価値は、世界一と言ってもいいかもしれない。

その日本の水さえも、限りある貴重なものなのだ。永遠に使い続けられるという保証はない。しかも、日本の水は、ダムや河川、用水路の管理、上下水道の管理など、多くの人の苦労や努力によって、価値が高められ、私たちに届けられている。それは容易にできることではないのだ。

だからこそ、この日本の恵まれた水に対して、当然のように使い続けるだけではいけないと思う。水を使う私たちこそが、この価値ある貴重な水を守り、大切に使っていかなければならないのだ。

私も、節水を心がけ、油もそのまま流さないように気を配るようになった。また、川の清掃ボランティアにも参加し、水の環境を少しでもきれいにできたらと思っている。

父と一緒にハウスに行ってみた。イチゴは花を付け始めている。一か月ほどで真っ赤に色づき、甘くておいしいイチゴになるだろう。これも水のおかげなのだ。

私たちの生活を支え、命を育む水。水の恵みに感謝し、私も小さなことから水を大切にし、この価値ある水を守っていこうと思う。

資料2

【優秀賞】

水の日からつながる世界

北海道教育大学附属函館中学校　三年　伊東　心凪

地震で停電になり、私の生活は一変しました。水が飲めない、お風呂に入れない、トイレの水も流せない。水がないことで生活が一気に成り立たなくなることを実感し、失って初めて、水がどれほど大切なものなのかを強く実感しました。私たちの日常生活には、当たり前のように清潔な水があり、意識することなく蛇口をひねり、水を流したままにすることさえあります。しかし、安全で清潔な水が得られることは決して当たり前のことではありません。

私はこの出来事をきっかけに、水について調べてみることにしました。そして、「水の日」について初めて知りました。「水の日」は、八月一日に水の大切さを考え、節水や水環境を守る意識を高めるための日です。なぜ八月一日なのか、はじめは疑問に思いましたが、暑さが厳しく、水の消費量が最も多くなる時期だからこそ、水の重要性が身にしみて感じられるのだと思いました。

また、八月は終戦日がある月でもあり、毎年この時期には平和や歴史について考える機会があります。私は、現在の日本では蛇口をひねれば当たり前に出てくる水が、戦時下ではどうだったのだろうと疑問に感じました。元兵士たちによる戦争の証言を取り上げたテレビ番組では、喉の乾きに耐えられなくなった兵士たちが田んぼや道ばたの泥水を口にしてしまい、コレラや赤痢がまん延し、亡くなる人もいたそうです。十分な水分を得られないまま猛暑の中を歩き続けることの過酷さは、想像を絶するものだと思います。

さらに調べてみると、世界には安全な水を飲めないことで命を落とす子どもがいます。ユニセフによると、二〇二四年時点で、二十一億人が安全に管理された飲み水を利用できず、一億六百万人は未処理の地表水に頼っているといわれています。また、水はきれいなだけでは十分ではなく、安全が保障されていることが大切です。しかし、多くの地域では水を手に入れるために、子どもたちが遠くまで水をくみに行かなければなりません。現在、三百三十万人の子どもが水くみをしており、毎日長い時間を水くみに費やしています。中には、一日に八時間もかかる場合があり、そのため学校に通う時間がなくなってしまいます。私はこの問題を知り、水が当たり前に使えることのありがたさと、水の安全が守られる社会の必要性を強く感じました。

私は今、テストのたびに募金をすると決めています。それは、自分の努力が世界の誰かを救うことにつながると考えることで、自分の頑張る力も高められるからです。ユニセフは、水が手に入らない地域の人々に水を届ける活動を行っています。募金をすることで、ユニセフを通して支援が届けられ、安全な水が人々の命を今日も繋いでいきます。

みなさんは八月一日「水の日」をどのように過ごすでしょうか。私は、同世代の人たちにも「水の日」を知ってもらい、水について考え、共に行動する日にしていきたいです。そして、一見つながりが見えにくい「戦争」と「水」を結びつけて考えることで、世界中の誰もが安全な水を使い続けられる平和な世界を守っていきたいです。

世界には安全な水がない厳しい環境で暮らす子どもたちがいます。安全な水が得られないために人々がどれほど苦しい思いをしているのかを考えれば、私たちの行動も変わるのではないかと思います。少額の募金や少しの節水でも、積み重なれば多くの命を支える力になります。すぐに成果が見えるわけではありませんが、できることを続けていきたいです。そして、「水の日」が水のありがたみに気付き、一人でも多くの人が行動を見直す日になるよう願っています。私は、これからも募金活動を続けるとともに、支援の輪を広げられる大人になりたいです。

資料３

全日本中学生 水の作文・北海道地方コンクールの概要

■目的

「水の週間（８月１日～７日）」の行事の一環として国が実施する「全日本中学生水の作文コンクール」と連携し、北海道においても次代を担う中学生を対象に「北海道地方コンクール」を実施し、広く水に対する関心を高め理解を深めることを目的とする。

■北海道地方コンクール

〇全日本中学生水の作文コンクール(中央審査：水循環政策本部、国土交通省主催）への推薦にあわせ、北海道地方コンクールとして道が選考した作品を昭和54年から表彰

〇令和８年度の概要

・応募　５校、作品８４編

・最優秀賞１編、優秀賞１編、入選３編、学校賞１校を選出

※入賞の５作品を中央審査に推薦

■今後のスケジュール（予定）

R8. 7　全国コンクール入賞作品決定（中旬）・報道発表（下旬）

全国コンクール入賞者表彰式（7/31（予定)、東京都）